

**薬学部**

I	研究の水準	.....	研究 4-2
II	質の向上度	.....	研究 4-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- インパクトファクター（IF）が10以上の学術誌に掲載された論文の総数は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の5件から第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の12件へ増加している。
- 科学研究費助成事業の採択状況は、第1期中期目標期間の平均20件（平均6,950万円）から第2期中期目標期間の平均38件（平均9,840万円）へ増加している。また、第2期中期目標期間の科学研究費助成事業以外の外部資金の受入状況については、共同研究は平均21件、受託研究は平均8件、寄附金は平均40件となっている。
- 地域貢献研究として、スダチ、阿波晩茶、レンコン等の徳島県の地域特産品の機能性に関する研究により、アレルギー疾患治療薬や糖尿病治療薬の開発、天然物の有効利用を目指した医薬品及び機能性食品素材の開発等の地域産業の活性化や、地域天然物資源の開発に貢献し得る研究を推進している。
- 製薬企業との共同研究講座である「がんと代謝研究講座」、「がんと代謝学分野」を開設している。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に化学系薬学の細目において特徴的な研究成果がある。
- 特徴的な研究業績として、化学系薬学の「海洋天然物パラウアミンの全合成」の研究があり、最も合成困難な有機化合物とされていたパラウアミンの全合成に成功している。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、薬学部の専任教員数は37名となっている。

学術面では、提出された研究業績8件（延べ16件）について判定した結果、「SS」は4割、「S」は4割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和）

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- IFが10以上の学術誌に掲載された学術論文数は、第1期中期目標期間の5件から第2期中期目標期間の12件へ増加している。
- 科学研究費助成事業の採択状況は、平成22年度の27件（約6,740万円）から平成27年度の40件（約9,270万円）へ増加している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 化学系薬学の研究成果により、平成25年度日本薬学会賞を受賞しているほか、2名の若手教員が平成23年度と平成26年度にそれぞれ日本薬学会奨励賞を受賞している。
- 化学系薬学の「海洋天然物パラウアミンの全合成」の研究において、最も合成困難な有機化合物とされていたパラウアミンの全合成に成功し、研究成果がIFが10以上の国際誌に掲載されている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。